

令和元年度 オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業
推進校ワークショップ

日 時：令和2年2月19日（水） 14時00分～16時30分

場 所：福岡リーセントホテル 2階クリスタルルーム

〒812-0053 福岡県福岡市東区箱崎 2-52-1

参加者数：36名（推進校24名、自治体9名、大学3名）

概 要：

14:00～ 開会行事

14:10～ 福岡県におけるオリンピック・パラリンピック教育実践事例紹介

福岡県教育庁教育振興部体育スポーツ健康課指導主事 村山 直樹

14:40～ 全国におけるオリンピック・パラリンピック教育実践事例紹介

筑波大学体育系教授 真田 久

（休憩 15分）

15:25～ 各学校における実践内容のグループ交流・交流内容の報告

16:25～ 諸連絡

16:30～ 閉会行事

内容詳細：

● **福岡県におけるオリンピック・パラリンピック教育実践事例紹介**

福岡県教育庁教育振興部体育スポーツ健康課指導主事村山氏より、今年度の県内における各推進校の実践概要が報告された。オリンピック／パラリンピック講演、障害者スポーツ体験（I'mPOSSIBLEを活用した事前学習）、国際車いすバスケットボール大会観戦、近隣の高校・特別支援学校によるボッチャ交流などの事例が紹介され、主な成果としてオリンピック・パラリンピックへの関心の高まりや、それを通じた郷土文化・国際理解、共生社会の実現に向けた価値観が養われたと報告された。また、今後の展開に向けて、東京2020大会の本番で生れるアスリートの逸話の教材化という視点が示された。

● **全国におけるオリンピック・パラリンピック教育実践事例紹介**

筑波大学体育系教授真田氏より、本事業の経緯と今後の方針に関して、特に福岡県では2020年5月12日（火）～13日（水）に実施されるオリンピック聖火リレーの各推進校等における展開について情報提供を行った。東京2020組織委員会の特設サイト：Tokyo 2020 for kidsに掲載された学習指導案、教材、実践例などを取り上げて説明した。また、今年度の他の地域拠点におけるオリンピック・パラリンピック教育の実践例について、島根県的美都中学校、群馬県の沼田南中学校等における特徴的な取り組みを紹介した。

● 各学校における実践内容のグループ交流・交流内容の報告

推進校（20校）を校種別に4～5名×6グループに分けて、今年度の実践報告と質疑・応答、また次年度以降の実践に向けたディスカッションが行われた。特に、1) 高価な教材・用具の学校間共有の推進、2) オリンピック・パラリンピック本番の機会を生かした道徳教材の開発、3) 選手に限らない学区・地域における人材発掘（外部講師招へい）の必要性が確認された。これらを受けて村山氏は、大会本番の機会を最大限に活用すること、そして大会後の継続の必要性を再確認し、本ワークショップを総括した。



写真 1. 事例紹介の様子



写真 2. 情報提供の様子



写真 3. グループ交流の様子①



写真 4. グループ交流の様子②